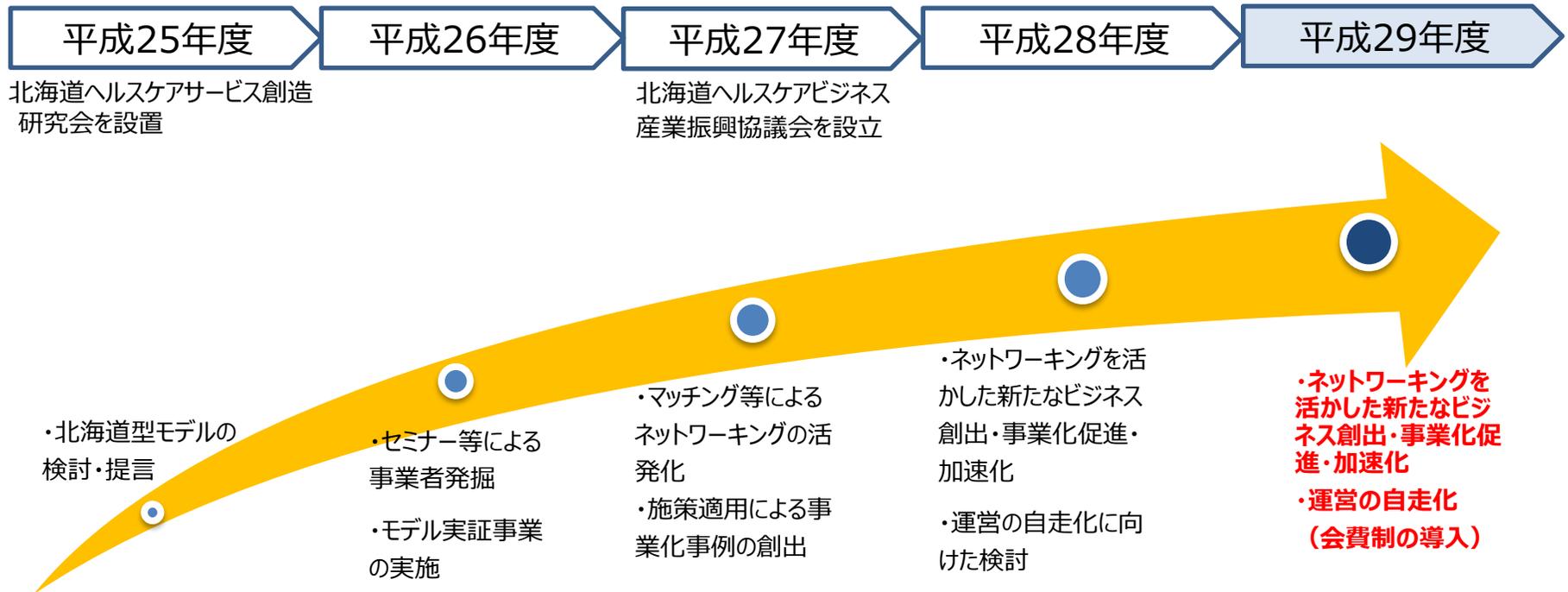


## 平成29年度の活動報告

北海道ヘルスケア産業振興協議会事務局  
(株)北海道二十一世紀総合研究所

# 1 北海道ヘルスケア産業振興協議会のこれまでの活動

## 【ヘルスケア産業創出に向けたロードマップ】



## 2 会員制の導入（会員数135（正会員117 特別会員18） ※平成30年6月15日現在

### ◆ 運営規約（会員部分抜粋）

#### 第2章 会員 （会員及び入会）

#### 第5条

本協議会は、前条の目的に賛同する者（以下「会員」という。）により構成する。

2 会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を本協議会の会長に提出することで、その資格を得るものとする。但し、会員は、原則、北海道内に事業所を有し、かつ、医療・福祉分野やヘルスケア分野の事業を行っている者、または、今後取り組みたい者、ヘルスケア産業を支援する者であることを条件とする。

3 会員は、名称、所在地もしくは連絡先に変更があった場合、遅滞なくその旨を事務局に届け出なければならない。

#### （会員の種別）

#### 第6条

本協議会の会員は、次の2種とする。

- （1）正会員 法人、団体、個人事業主、個人事業主を除く個人等
- （2）特別会員（議決権を有しない） 国、自治体、及びこれに準ずる公的機関

#### （会費）

#### 第7条

会員は、総会において定める会費を納入しなければならない。

- （1）正会員 年会費 10,000円/口、1口以上
- （2）特別会員 年会費 なし

### ◆ 会員が協議会に期待すること

（平成29年2月にアンケート等により把握）

- ・道内の大手ヘルスケア企業との連携促進
- ・連携しうるパートナーの紹介やマッチング支援  
（実証連携先の紹介、道外企業会員による道内進出の支援）
- ・医療・介護現場でのニーズ把握  
（IT系企業など。現場でのヒアリングなど）
- ・自治体プロジェクトへの参画促進  
（今後予定されるヘルスケア関連の開発プロジェクトなど）
- ・展示会などへの共同出展  
（複数社をコーディネートし、1社当たり出展費の削減）
- ・既存商品・サービスのプロモーション機会の創出
- ・自社商品・サービスのブラッシュアップ支援
- ・特定テーマに関する研究会  
（SIBなどをテーマに）
- ・会員企業の商品・サービス体験  
（相互の商品・サービスを知るところから。現場で体験）
- ・上記にかかる個別支援

※会員名簿参照

### 3 平成29年度の活動概要

計画	実績
(1) 総会・役員会の開催 ① 定期総会の開催 (1回) ② 役員会 (1回)	(1) 総会・役員会の開催 ① 定期総会の開催 (H29.6) ② 役員会 (H30.5)
(2) ヘルスケアビジネスの創出に寄与する研究会の開催 アクティブシニア、食、地方創生・地域課題解決、医療・介護連携、運動等をテーマとした道内外の講師の招へいによる勉強会等。(開催回数：年5回)	(2) ヘルスケアビジネスの創出に寄与する研究会の開催 ① 第1回 (健康行動変容・IT：H29.9) ② 第2回 (医療分野との連携：H29.10) ③ 第3回 (地域包括ケア (鷹栖町視察：H29.12)) ④ 第4回 (大学シーズの活用：H30.2)
(3) 協議会活動の情報発信 ① 「2017 いきいき健康・福祉フェア 2017」への出展 ② ヘルスケアに関連する最新情報等を提供するセミナーの開催 (1回) ③ HP・メルマガ等による国や自治体の施策情報、会員の事業活動内容の紹介、ヘルスケア関連セミナー等の案内等。	(3) 協議会活動の情報発信 ① 「2017 いきいき健康・福祉フェア 2017」への出展 (6社参加：H29.10) ② ヘルスケアに関連する最新情報等を提供するセミナーの開催 (6月、11月、3月 (2回)) ③ HP・メルマガ等による国や自治体の施策情報、会員の事業活動内容の紹介、ヘルスケア関連セミナー等の案内等
(4) ビジネス化に向けた個別支援 実施体制の構築に向けて連携したい会員等とのマッチング、コーディネート等、専門的人材の紹介、国や地方自治体等の施策活用や補助金等の申請に係るアドバイス等	(4) ビジネス化に向けた個別支援 ① 大手企業と連携した取組 (上記研究会、セミナー含む) (アステラス製薬、フィリップス・ジャパン、エム・ティ・アイ) ② ホクノー健康ステーションの実証支援 (経産省補助金) ③ 個別企業への相談対応など
	(5) その他 ① きた食DAYコンテスト2017の事務局対応

## 4 ヘルスケアビジネスの創出に寄与する研究会の開催 ①

### 第1回研究会

100万人以上が利用する食事管理アプリ「あすけん」を題材としながら、消費者の健康行動変容モデルについて学ぶ勉強会を開催。

【日時】平成29年9月11日（月）16：00～18：00

【場所】街中スペースCOVO

【人数】約30名

【プログラム】

○ 講演

（仮）消費者の健康行動変容を促す仕組みづくり  
（株）ウィット 執行役員 天辰 次郎 氏

○ 会員からの情報提供

新しいスポーツイベント「マラニック」について  
合同会社 元気づくり工房 代表 最勝寺 久和 氏



### 第2回研究会

道内ヘルスケア産業創出・振興に向けた大手製薬メーカーとの連携可能性を探るための情報交換会を開催。

【日時】平成29年10月12日（木）16：00～18：00

【場所】アステラス製薬(株)札幌支店会議室

【人数】約30名

【プログラム】

○プレゼンテーション

アステラス製薬(株)札幌支店 統括室室長 福士 納 氏

○当協議会会員からのプレゼンテーション

- ・株式会社グローバル・コミュニケーションズ（訪問介護事業効率化ソリューション）
- ・株式会社ポロワッカ（円山おとなカレッジ）
- ・(株)リッジワークス（ヘルスケア関連IoTサービス等の紹介）
- ・北海道全員健康株式会社（オフィスで健康づくりを推進するプロジェクト紹介）
- ・(株)ビームオン（AIで脳老化を検知するクラウドサービスのご紹介）

※情報交換会・懇親会会場はアステラス製薬会議室を無料提供いただいた。

## 4 ヘルスケアビジネスの創出に寄与する研究会の開催 ②

### 第3回研究会

地方における地域包括ケア体制や日本版CCRCの先進事例を学ぶため、鷹栖町を視察した。

【日時】平成29年12月6日（水）10:30～15:00

【場所】鷹栖町内施設および役場

【人数】約10名

【プログラム】

○サービス付き高齢者向け住宅「ぬくもりの家 たかほ」  
（社会福祉法人さつき会が運営。）

○サンホールはびねす（役場保健福祉課）

町企画課、健康福祉課、社会福祉協議会による取組説明、意見交換の実施



### 第4回研究会

「介護予防や生活支援」に係る北海道科学大学の研究シーズを活用した新たなビジネス創出の可能性を探る勉強会を開催。

【日時】平成30年2月20日（火）16:00～18:00

【場所】街中スペースCOVO

【人数】約30名

【プログラム】

○講演

介護予防や生活支援を支える北海道科学大学の研究シーズ  
宮坂 智弥 氏  
（北海道科学大学保健医療学部 理学療法学科 教授）

○当協議会会員からのプレゼンテーション

- ・株式会社ミルウス
- ・飛栄建設株式会社



## 5 協議会活動の情報発信 ①

### いきいき健康・福祉フェア2017の出席

札幌市内で開催される「いきいき健康・福祉フェア2017」において、協議会の各種取組の紹介、会員企業の商品展示等を通じて、関係機関・事業者へのPR、ネットワーク拡大につなげた。

【日時】平成29年10月13～15日

【場所】アクセスサポロ

【出展内容】

○ブース展示

- ・北海道ヘルスケア産業協議会の取組
- ・会員企業の商品
- ・「きた食dayコンテスト」の紹介 等

(出展事業者)

- ・札幌ヤクルト販売(株)
- ・フィジオウェルネスマルヤマ (フットケアサービス)
- ・お食事のカウンセリングサロン colan (管理栄養士によるセミナー)
- ・飛栄建設株式会社 (「笑いヨガ」セミナーの開催)
- ・医療法人重仁会 (従業員等を対象としたメンタルヘルス・サービス)
- ・株式会社ルシファ／トレリハセンターまえた (シニア向けフィットネスなど)

### ヘルスケア産業創出セミナー①

総会と併せて、くまもと健康支援研究所の松尾社長を招聘し、地域におけるヘルスケアビジネス創出に係るセミナーを開催。

【日時】平成29年6月16日(金) 17:00～19:00

【場所】TKP札幌ビジネスセンター

【人数】約60名

【プログラム】

○講演

地域連携によるヘルスケアビジネスの創出に向けて  
株式会社くまもと健康支援研究所 代表取締役  
松尾 洋 氏

○ヘルスケア協議会の紹介 (事務局)



## 5 協議会活動の情報発信 ②

### ヘルスケア産業創出セミナー②

北海道経済産業局、北海道厚生局との共催により、地域包括ケアシステムの構築をテーマとしたヘルスケアビジネス創出に係るセミナーを開催。

【日時】：平成30年3月16日（金） 13:30～17:15

【会場】：TKP札幌ビジネスセンター

【人数】：約120名

【主なプログラム】：

○施策紹介

厚生労働省 北海道厚生局  
経済産業省 北海道経済産業局



○特別講演

『人生百年時代の地域社会貢献の具体策  
～元気シニアの活躍・就労そして生き甲斐のプラットフォーム創り～』

(株)かい援隊本部・代表取締役会長 新川 政信 氏)

『明日の地域包括ケアを支えるサイバニックシステム“HAL®”  
の様々な活用法』

(CYBERDYNE株式会社・本部長 安永 好宏 氏)

○地域包括ケアシステム構築に向けた道内事例紹介

1. 後志4町村による官民連携型の健康づくり
2. 地域スーパーの健康ステーションサービス
3. 北海道ヘルスケア産業振興協議会の活動紹介

### 協議会活動の情報発信（随時）

HPやメールを通じて、ヘルスケア関連施策、WG情報、会員等が主催するヘルスケア関連のイベント紹介の情報等を会員に提供。

【メールによる情報発信件数：88件】

- ・協議会事業に関するご案内
- ・国や北海道、札幌市等の事業に関するご案内
- ・会員からの依頼による情報発信
- ・その他

【新規会員獲得に向けた活動】

- ・一般向けセミナーの開催、協議会パンフレット等の郵送、企業訪問等を実施
- ・総会時から会員数が102→135に増加

## 6 ビジネス化に向けた個別支援【実証支援】

### 『地域スーパーを核とした地域包括ケアシステムの構築を促進する健康ステーションサービス』実証事業

～平成29年度「健康寿命延伸産業創出推進事業(地域の実情に応じたビジネスモデル確立支援事業)」を活用～

札幌市厚別区のもみじ台地区は、高度経済成長期の札幌への人口集中に対応するため造成された大規模住宅団地であるが、人口減少、高齢化の進展から、日常生活圏域にある地域の中核的なスーパーが、店舗内に健康ステーションを配置し、「地域包括ケア」や「ヘルスケア」に係る「気づき」・「学び」・「実践」に繋がるワンストップサービスを当該地区の住民（主に高齢者）に提供し、「健康づくり」・「居場所づくり」・「役割づくり」を支援する新たな互助の仕組み（アクティブシニアによる生活支援サービス）の構築を目指します。

#### 【事業実施者】

北海道ヘルスケア産業振興協議会 地域モデルコンソーシアム

- ・代表機関（協議会会員）：(株)ホクノー
- ・副代表機関（協議会会員）：凸版印刷(株)
- ・協力機関：北海道ヘルスケア産業振興協議会、行政、病院、自治会、大学、

ヘルスケア関係事業者（協議会会員：(株)ポロツッカ、(株)北海道二十一世紀総合研究所）等（17機関）

【実施地域】 札幌市厚別区もみじ台エリア

【実証期間】 平成29年11月6日～平成30年2月17日（健康ステーション開設：月～土曜日 10：00～16：00）

#### 【実証結果】

- モニター登録 153名（男性34名 女性119名）  
→ 新聞折込チラシ、自治会などの協力団体を通じた周知。
- ステーション利用者 1日おおよそ30名  
→ 地域住民の健康づくりや居場所、拠点として確立しつつある。
- 有償ボランティア 9名（男性3名 女性6名）  
→ スムーズに確保。「もみじ台の活性化」のために一役買いたいという地域住民の潜在的な意識の高さを再確認。

- 講座 36講座開催（1回平均20名）  
→ 講座別に参加者数（9～37名）にばらつき有り。
- ネット配信されたインストラクターの指導による運動講座（1日2回）  
→ 1回平均15名が参加し、そのほとんどがほぼ毎日利用。  
室内ウォーキングも積極的に行っており、運動習慣化が進んでいる。

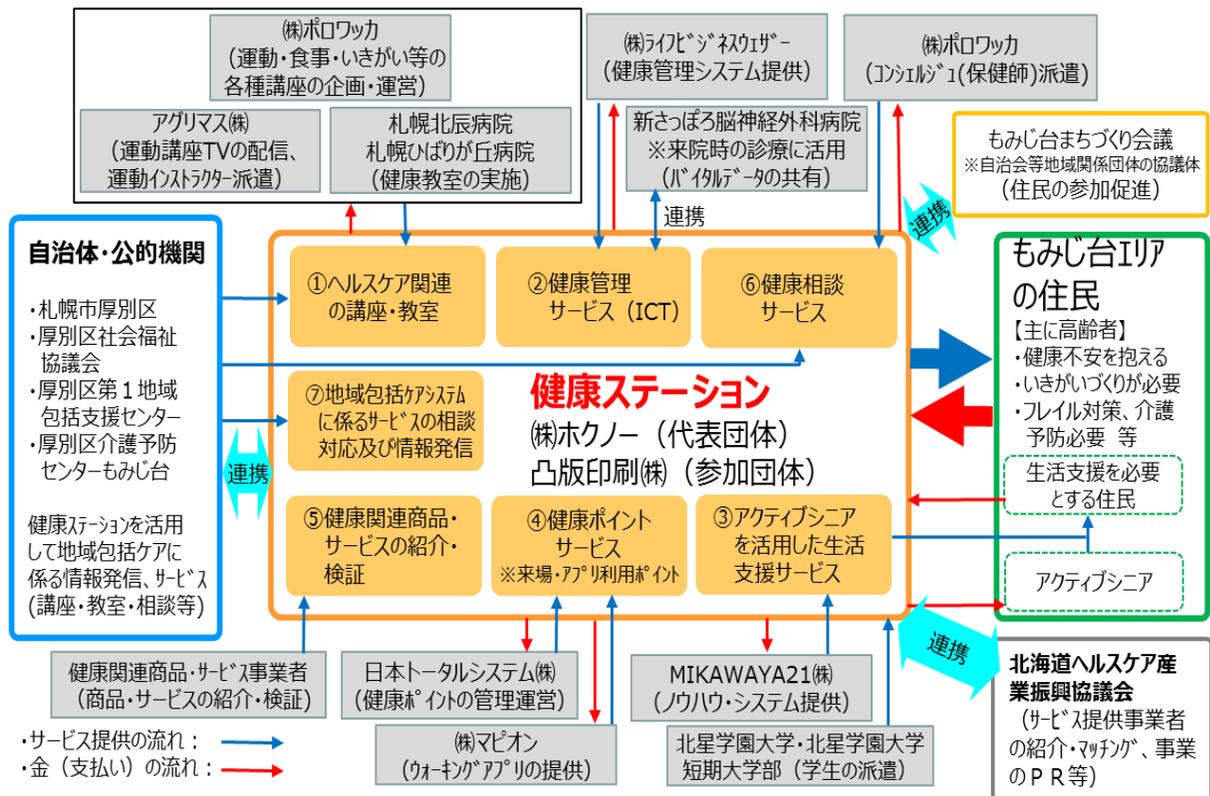


# 6 ビジネス化に向けた個別支援【実証支援】

## 『地域スーパーを核とした地域包括ケアシステムの構築を促進する健康ステーションサービス』実証事業

～平成29年度「健康寿命延伸産業創出推進事業(地域の実情に応じたビジネスモデル確立支援事業)」を活用～

### 【事業内容・実施体制】



凸版印刷(株) (参加団体) 健康ステーションサービスをパッケージにして次年度以降、他地域に展開。

### 【事業成果】

1、健康ステーション設置に伴うスーパーや食堂の売上効果  
 モニターのうち新規顧客が18.6%、買い物頻度の増加、買い物の種類・量の増加など、以前よりも買い物が増えたモニターは60.0%であり、売上増に寄与。健やか食堂は、実証期間の4か月間、来店数・売上高ともに前年同期比よりプラスに上昇。

2、有料化によるステーション運営可能性の確認  
 モニターの71.4%がステーションの継続利用意向を示し、60.0%が有料(月会費制)でも利用意向を示した。

3、住民の健康改善・健康行動変容効果  
 アンケートに回答いただいたモニター約3割が、以前より歩くようになった、体調がよくなった・ダイエットにつながった、自宅で健康づくりを行うようになった等、ステーションを利用することによる健康改善・健康行動変容効果が見られた。

4、地域の多様な機関との連携体制の構築  
 本事業の円滑な運営に向けて、住民組織、医療機関、地域包括支援センター、介護予防センター、社会福祉協議会、ヘルスケア関連事業者など、地域包括ケアを推進する多様な機関から協力を得ることができた。

## 6 ビジネス化に向けた個別支援【商品・サービスの普及促進】

会員企業からご協賛いただき、健康経営の普及を進めることができました。

大企業との  
コラボ！①

協議会 × (株)エムティーアイ



<健康経営推進セミナーの開催>

【日時】平成29年11月6日（月）15:00～18:00

【場所】TKP札幌ビジネスセンター

【参加人数】約60名

【主催】**北海道ヘルスケア産業振興協議会**

【協賛】**協議会会員：(株)エムティーアイ（本社：東京都）**



【プログラム】

○施策紹介

ヘルスケア産業施策における健康経営の取組等をご紹介  
経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課

○基調講演

地域におけるヘルスケアビジネス。企業もヘルスケアする時代。  
(株)ヘルスケア・ビジネスラッジ 代表取締役社長 西根 英一 氏

○先進事例紹介

「ルナルナ」を運営するエムティーアイによる「健康経営」最前線！  
取り組み企業における最新事例と成功の秘訣とは  
**協議会会員：(株)エムティーアイ** 執行役員  
ヘルスケア事業本部 副事業本部長 秋田 正倫 氏

○道内ヘルスケア商品・サービスのご紹介

**協議会会員：フィジオウェルネスマルヤマ、北海道全員健康(株)**  
**医療法人重仁会大谷地病院、(株)日本トリム**

○北海道ヘルスケア産業振興協議会のご案内

大企業との  
コラボ！②

協議会 × アステラス製薬(株)



<健康経営推進セミナーの開催>

【日時】平成30年3月1日（木）13:30～17:00

【場所】北彩都病院 6階 会議室

【定員】約40名

【主催】**北海道ヘルスケア産業振興協議会**

医療法人仁友会北彩都病院

**協議会会員：アステラス製薬(株)（本社：東京都）**

【後援】旭川市医師会・旭川市

【プログラム】

○施策紹介

・ヘルスケア産業施策における健康経営の取組等をご紹介  
経済産業省 北海道経済産業局 情報・サービス政策課

・始めよう健康経営「健康事業所宣言」

**協議会会員：全国健康保険協会(協会けんぽ) 北海道支部**

○特別講演

本邦におけるがんの事情と急増する前立腺癌の早期発見  
北彩都病院 泌尿器科癌診断・治療センター長 徳光 正行 氏

○北彩都病院における取組

○道内ヘルスケア商品・サービスのご紹介

**協議会会員：サイバートラスト(株)、(株)日本トリム、(株)エルス**

○北海道ヘルスケア産業振興協議会のご案内

## 6 ビジネス化に向けた個別支援【ビジネス創出等】

まちづくり×ヘルスケアに係るイベントを会員企業との連携、協賛により開催しました。

大企業との  
コラボ！③

(株)フィリップス・ジャパン **PHILIPS**

**協議会会員：(株)フィリップス・ジャパン (本社：東京都)** は、新札幌駅周辺企業等と連携し、健康都市空間「新さっぽろ」を広くPRするため、「マラニック」という新しいスポーツを活用したイベントを開催。

【名称】 健康都市空間・新さっぽろロハスマラニック

【開催月日】 平成30年5月19日（土）

【主催】 健康都市空間・新さっぽろロハスマラニック実行委員会

【協賛】 (株)フィリップス・ジャパン、フィリップス・レスピロクス合同会社

【後援】 札幌市、札幌市厚別区、札幌市教育委員会

【協力】 **北海道ヘルスケア産業協議会**

**協議会会員：凸版印刷(株)、(株)ホクノー**ほか

【事務局】 合同会社元気づくり工房

【事業内容】

- ✓ 新さっぽろ駅を起点に野津幌川の緑地帯、長閑な農業エリア、野幌森林公園の自然に触れながら散策できるコースを設定。
- ✓ コース沿線では景色、自然、歴史、食事等を堪能できるほか、地元の特産品や**協議会会員による健康に関するサービス等の提供**が受けられる。

【募集】 500名 平成30年4月20日まで

【詳細】 ランニングポータルサイト「RUNNET」

<https://runnet.jp/entry/runtes/user/pc/competitionDetailAction.do?raceId=179173&div=1>

※マラニックとは：「**マラソン**」と「**ピクニック**」の2つの要素を取り入れた順位やタイムを競わない新しいスポーツ。

協議会に参画したことで**新しいビジネス**が生まれました。

新ビジネス  
スタート！

北海道全員健康(株)



**協議会会員：北海道全員健康(株) (本社：札幌市)** は、主に行政が実施している取組（体育館での地域住民向け講座等）へのインストラクターの派遣を行っていましたが、企業の健康経営を推進するため、法人向け（従業員向け）サービスを協議会事務局の支援を受けスタート。

平成29年10月に大手設計会社への販売が実現。

【オフィスで健康づくり：パッケージ例】

- ✓ 企業の会議室、空きスペースを活用
- ✓ インストラクターが会社に出向き実施
- ✓ 定期運動の実施  
（週1回、決まった時間に15～30分間、リズム体操、ヨガ、ストレッチ等）
- ✓ 足形計測会  
（**協議会会員：フィジオウェルネスマルヤマ**の協力により足の状態を確認）
- ✓ セミナー開催、体組成測定、栄養管理



# 6 ビジネス化に向けた個別支援【新たな取組の芽】

協議会に参画し、会員同士の連携や協議会事務局の支援を受け新しいビジネスの商品化、サービス化を目指しています。

新ビジネス  
開発中！①

miruUs (株)ミルス × サイバートラスト(株)

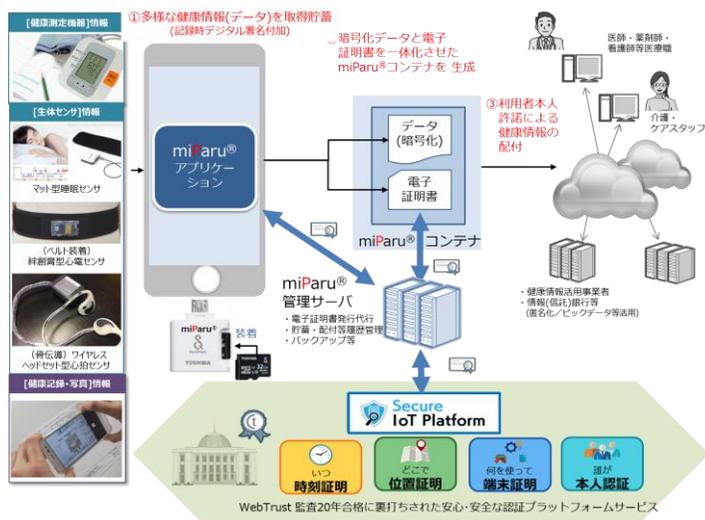


**協議会会員：(株)ミルス（本社：札幌市）、協議会会員：サイバートラスト(株)（本社：東京都）、(株)デジオン（本社：福岡市）、公立大学法人広島市立大学と連携し、医療・健康等IoT情報のセキュアな記録・管理及び配付に対応する「電子証明書対応SDメモリーカード“miparu®”」を共同で開発中。**

【“miparu®”を活用した実証実験を実施】

札幌市西区において、歯科医師・薬剤師間で“miparu®”を活用し、地域住民の医療・健康情報を安全・安心かつ容易に共有することが可能か健康相談会を通じ検証を実施。

<“miparu®”イメージ>



※実証実験については、平成29年度「札幌市健康関連産業ビジネスモデル構築支援事業」（札幌市）を活用。

新ビジネス  
開発中！②

(株)ビーム・オン



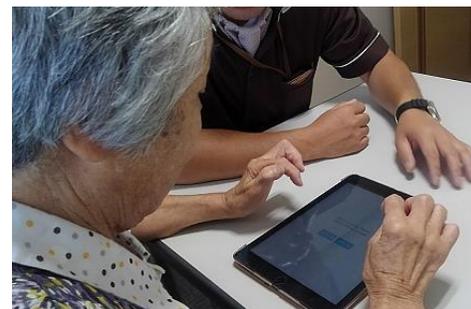
**協議会会員：(株)ビーム・オン（本社：当別町）**は、最先端のITを活用して、高齢者でも抵抗なくゲーム感覚操作で簡単に脳の老化や疾患を早期検知できるシステムを開発。

仕様設計と機能試験については、高齢者介護施設と**奈良県立医科大学の梅田教授（昨年度、協議会WGにおいて講師として招聘）**の協力により開発・評価・アドバイスを得ながら実施し、高齢者や介護職員から高い評価を得た。

今後は、開発した試作品の測定精度を充実するためにサンプルデータを蓄積し、早期の商品化を目指す。

【楽しみながら早期発見 AIで脳老化を検知するクラウドサービス】

- ✓ 数理統計やAIアルゴリズムを活用し、結果から老化や疾患の疑いを検知。
- ✓ 結果の集積（ビックデータ）の統計分析によりアプリ使用頻度と老化疾患予防の関連を導き出し、介護施設者や医療関係者へ提供（別途有料提供）。
- ✓ 1日1人あたり「50円」（予定）の安さ、かつ「使用した日数分だけお支払い」は、介護施設側の負担軽減と納得性を高める。



※平成28年度補正「革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金」（経済産業省）を活用。

## 7 その他の活動

### きた食dayコンテスト2017の開催

医療・福祉施設（管理栄養士・栄養士、調理従事者）を対象に、北海道産素材を活用した美味しい給食献立のコンテスト及び表彰を実施し、給食サービスの向上・高付加価値化、道産素材の利用拡大を啓発。

#### 【主催】きた食dayコンテスト実行委員会

（北海道ヘルスケア産業振興協議会、北海道病院協会、北海道栄養士会、北海道老人福祉施設協議会、ホクレン、ぎよれん、北海道二十一世紀総合研究所）

#### 【協賛】北海道病院協会

#### 【後援】北海道、(株)北海道新聞社、コープさっぽろ

【対象】：医療・福祉施設の管理栄養士・栄養士と調理従事者で構成するチーム

【応募件数】49件

#### 【受賞者】

##### ★グランプリ

社会医療法人社団 愛心館  
介護老人保健施設プラットホーム



##### ☆準グランプリ（2施設）

社会医療法人社団 愛心館 愛心メモリアル病院  
医療法人 湊仁会 手稲湊仁会病院

##### ☆特別賞（3施設）

社会医療法人 耳鼻咽喉科 麻生病院  
社会医療法人 耳鼻咽喉科 麻生北見病院  
社会福祉法人 博愛会 コムこの里みどりヶ丘

### 小樽商科大学との連携

経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」において、小樽商科大学が実施主体となっている「地域包括ケアシステムの中核を担う医療経営人材育成事業」において、当協議会がコンソーシアムメンバーとして参加。

モデル的に開発した医療人材育成プログラムに、当協議会の会員への参加促進。（5事業者が参加）

#### 【コンソーシアム機関】

小樽商科大学、湊仁会グループ（医療法人湊仁会[法人本部]、医療法人湊仁会手稲湊仁会病院、医療法人湊仁会札幌西門山病院、医療法人湊仁会定山湊病院、社会福祉法人湊仁会）、キャリアバンク（株）、北海道大学、（株）ほくやく・竹山ホールディングス、（株）アミノアップ化学、生活協同組合コープさっぽろ、凸版印刷（株）、（株）ソプラティコ、井原水産（株）、札幌商工会議所、札幌市、（株）北海道二十一世紀総合研究所（北海道ヘルスケア産業振興協議会 事務局）

本資料に  
関する  
お問合せ先

株式会社北海道二十一世紀総合研究所（北海道ヘルスケア産業振興協議会事務局）  
TEL 011-231-3053 FAX 011-231-3143 mail : health@htri.co.jp  
担当 佐治（さじ）、河原、小山、岩谷、清家